



発行所

日本聖公会 東北教区  
仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>

## シリーズ「東北の信徒への手紙」 あなたがたは世に属していない

(ヨハネ15章19節)

司祭 ステパノ 涌井 康福



多くの方が愛誦<sup>あいしよ</sup>聖句を  
持っておられると思います。  
それぞれの心に響いた聖書の  
言葉、それは素晴らしい神の  
言葉の贈り物です。

一方で気を付けなければい  
けないのは、私たちは神の言  
葉を都合よく切り取って自分  
の思いの証明に使ってしまう  
誘惑に駆られることです。表  
題の聖句を「そうだ。私たち  
は天に属しているのだから、  
罪と汚れにまみれたこの世と  
はできるだけかわってはい  
けないのだ」などと受け取っ  
てしまうと、イエス様の思い  
を無にしてしまうことになり

います。要は私たち各々がど  
れに近づくこととしてい  
ることが大事だということ  
でしょう。

幸いなことに、私は4つの  
教区の教会のみなさんとわか  
る機会がありました。信徒  
のみなさんといろいろな話を  
させていただきました。ご高  
齢の先輩方からは昔の教会の  
様子、楽しかったこと、宣教  
師の思い出、大変だったこと  
などを聞かせていただきました  
が、どこの教会でも時折、  
人権問題になりそうな話が飛  
び出してきました。

過去の日本において、現代  
よりもさらに性差やハンディ  
キャップを抱える人々の人権  
が軽視されてしまうことや、  
「職業に貴賤なし」との言葉  
が生まれるほどに職業差別や  
出自に対する差別が大きかつ  
た時代がありました。「そうい  
う時代だったから仕方がな  
い」ということもできるので  
しょう。いや、仕方がない  
というよりもそれが「世の常識」  
であり、それに異を唱えるこ  
との方が奇異なことだったの  
かもしれない。しかし「お  
前たちはそういう存在なの  
だ」と決めつけられた人た  
ちが、仕方がないことだと納得

していたわけではないのです。  
それが自然な心の動きだと思  
います。

「そういう時代だった」と  
はしばしば用いられる言い訳  
ですが、「世に属していない」  
はずの教会もそれでよいので  
しょうか。もちろん人も行政  
も目を向けなかった小さくさ  
れた人、病者、社会から邪魔  
者扱いされた人たちに寄り添  
い支えた先人たちはたくさん  
いました。戦時中でさえも声  
を上げるのをあきらめなかつ  
た人たちもいたのです。しか  
し多くの人が「世のあたりま  
え」に従ってしまったか、疑  
問を抱くこともなかったの  
ではないでしょうか。

今私は現在の視点から過去  
を眺めて書いていますが、自  
分がその時代に生きていたら  
「世に属していない者」とし  
て生きられたのだろうかと思  
います。それは自分も現在の  
「世の常識・価値観」を第一  
にしてしまっているのではと  
いう恐れを感じたからです。  
「世に属さない者」としての  
視点はいつの時代の教会にも  
大切なものなのです。

主よ、どうかみ名のみを崇  
めさせてください。

(福島聖ステパノ教会牧師)

## SNS活用研修会 開催

8月24日、広報グループ主催の「SNS活用研修会」をオンラインにて開催しました。最近ではインターネットで検索して教会に来られる方が多いことから、ホームページの役割が大きくなっています。しかし開設方法や管理の負担が大きく、なかなか開設に踏み出せない教会が多いのが現状です。そこで比較的取り組みやすいSNS（インスタグラムやフェイスブック）を各教会の広報媒体として活用できるきっかけになればと、研修開催に至りました。

今回は開設や管理の具体的な方法というより、実際にSNSを活用されている教会の方にお話をうかがう会になりました。お話しくださったのは、フェイスブックで仙台基督教会の発信をしている有我忠幸聖職候補生、インスタグラムでの発信は富山聖マリア教会を司牧する柳原健之司祭、磯山聖ヨハネ教会信徒

の中曾みどりさんです。更新する内容や頻度、工夫されている点や気をつけていることなど、それぞれ丁寧にお話くださいました。

皆さんに共通していることは、更新が滞らないようにすること、けれど負担にならないよう協力者がおられること。そして何よりも教会の存在を多くの方に知っていただくという事です。そのため試行錯誤がうかがえ、とても興味深いお話でした。

参加者の中には実際に発信している方、閲覧のみの方、そもそもSNSが何かおぼろげ々と様々いらっしゃいましたが、どなたにも理解しやすい身近なことから捉えられるような会になりました。当日都合がつかず参加できなかった方や興味を持たれている方へ録画したものをお送りすることも可能です。ぜひ広報グループまでご連絡ください。

教会を開くことの一助となることを願っています。

連絡先  
nsk.tohokukohoh@gmail.com  
(グループリーダー)

ミッシェル 福土 恵美)



東北教区

アイリーン 坂水 かよ

季節は夏から秋へ、この間の「チーム北国」の活動を報告します。毎月のコアメンバーのミーティング（対面とリモートによる）と4つのセクション「宣教協働」「広報」「組織」「財政」毎のミーティングも回を重ね、中身の濃いものになってきました。その内容については11月開催の各教区会で報告されます。

またこの間、各教区のプログラムをお互いが共有し協働する機会が多くなっています。10月14日に北海道教区宣教協議会が、11月4日には東北教区宣教協議会がそれぞれ開

催される予定です。お互いの教区からそれぞれ代表者が参加し、さらなる交流と協働を深めます。

10月29日の東北教区教役者研修会では、講師に祈祷書改正委員会専任委員の市原信太郎司祭を迎え、「改正祈祷書の学び」を計画し、笹森田鶴主教にも同席していただくことになりました。同時に北海道教区の教役者会にも呼びかけをしているところです。

広報・宣教協働各セクションのコラボ企画、「まなびの会出張講座」知っておきたい1・2・3」を実施します。宣教協働と教区再編のなぜ？どうなるの？等の素朴な疑問を語り合う「学びと親睦」を目的とします。第1回を10月20日に盛岡聖公会で、第2回を11月16日に札幌キリスト教会を会場に開催します。

さて、今年の教区会でも、「北国セッションおぼんです2024」の開催を計画しています。両教区が笑いに包まれること間違いなし！今年も楽しい時間を共有できることに期待しています。

1957年、西小学校佐藤正雄校長宅にて北見集会が始まり、1960年3月大齋克己献金第一号援助、同年12月には献堂式と宣教は勢いを持って進みました。現在の建物は1990年に落成。困難を分かち合い支え合って歩む時期へと今はあり、普段は4〜5名で、皆が90歳代の礼拝。冬は零下30度を下回る日もありますので、小さくても温かな建物があればと願っています。年に一度収穫する葡萄のように、甘い香りの癒しの共同体でありたいものです。



北見聖ヤコブ教会

1957年、西小学校佐藤正雄校長宅にて北見集会が始まり、1960年3月大齋克己献金第一号援助、同年12月には献堂式と宣教は勢いを持って進みました。現在の建物は1990年に落成。困難を分かち合い支え合って歩む時期へと今はあり、普段は4〜5名で、皆が90歳代の礼拝。冬は零下30度を下回る日もありますので、小さくても温かな建物があればと願っています。年に一度収穫する葡萄のように、甘い香りの癒しの共同体でありたいものです。





### 「私とキリスト教との出会い」

仙台聖フランシス教会

ヨセフ 長井 淳



先日、遠藤周作さんの「深い河」という本を久しぶりに読み返してみました。お読みになった方はご存知だと思いますが、その中の文章で大津という神父希望の神学生という女性が「ねえ、その神という言葉やめてくれない。いらいらするし実感が無いの。私には実体がないんですもの。大学の時から外人神父たちの使うあの神という言葉に縁遠かったの。」すると大津という神学生は「その言葉が嫌なら他の名前に変えて

もいいんです。トマトでもいい玉ねぎでもいい。」

私とキリスト教との出会いは聖クリストファ幼稚園です。園長のシスターマリヤは当時お昼になると生野菜とサンドウィッチを食べる不思議な人でした。今は珍しくありませんがそのころ生のニンジン野菜スティックの形で食べるということ。家庭ではありませんでした。英語との出会いもその時が初めてでした。シスターマリヤは片言の日本語で英語を教えてくださいました。鳥は「バード」ではなく「ブー」としか聞こえませんでした。中学校の英語の授業で「バード」が鳥だと言われ戸惑ったのを覚えています。「天のおとうさま」「イエス様」が私にとってどういう存在なのかわけもわからずお祈りしたり聖歌を歌っていました。

遠藤周作さんの小説の大津という人が表現した「玉ねぎ」をそのころから私が意識していたかどうかはわかりませんが、今思えばその存在が私に芽生えたのはシス

ターマリヤと出会ったそのころだったのかもしれない。大津はこのような表現をしています。「神は存在というより働きです。玉ねぎは愛の働く塊なんです。」

小中高、大学、社会人と年齢とともに私は「神」(玉ねぎ)の存在を探しました。見つかるはずはありません。存在ではなく働きののですから。それを感じるようになったのは最近のことです。この「玉ねぎ」の働きが私を生かしてくれているのだということが、分かったような気がします。縁があり私は現在聖クリストファ幼稚園の理事長を務めさせていただいております。72歳となった今、これからも「玉ねぎ」という「愛の働く塊」に生かされていくことを願っております。

**10月中旬発売**

**聖公会手帳 2025年版**

教会暦、日課表の最新版を完全収録  
日本聖公会各教区の協力のもと  
管区事務所が責任編集

大型版 2,200円(税込)  
ポケット版 1,200円(税込)

お申込みは **パイルハウス南青山** まで  
03-3567-1160  
※インターネットでの注文も可能です



### 「堅信をうけるまで」

仙台基督教会

川名 琴心

この度は、たくさんの方々のご協力により堅信を受けることができましたことを心から感謝しています。今回、私が堅信を受けようと決意したきっかけについてお話ししたいと思います。

私はこの教会で幼いころからみなさんの温かい愛情に触れて過ごしてきました。教会は私にとって大好きな場所でしたが、大学生になるまでは一生をかけて神様と向き合いこの身をゆだねる勇氣がありませんでした。私にとって母はとても大きな存在なのですが、自分がここに来ているのは母がいるからなのか、自分の意志なのか、自分の気持ちに分かりませんでした。大学生になり東京で一人暮らしをするようになって近くの教会に一人で通うようになりました。そこで私は、教会で過ごす時間が自分にとって大切であるということに気付きました。



た。礼拝の間は、日々の自分の行いを振り返り、幸せに生活できていることに感謝することができそうです。そしてこれからも誠実に一生懸命生きたいという気持ちになります。神様のことを考え、神様に感謝する時間が、私を前向きな気持ちにさせてくれます。一人で教会に通うようになって一年、一生を通して神様と向き合い、教会で過ごしたいと思うようになったため、堅信を受けることを決意しました。私の考えには未熟な部分もたくさんありますが、堅信を受けたいという私の決断をたくさんの方が喜んでくださり、堅信を受けることができ、嬉しいです。神様と歩むこれからの人生を、精一杯生きていきたいです。



### 弘前昇天教会

7月から8月にかけて2週間ほど、李司祭のお知り合い4名の方が当教会に滞在されました。日本映画『かもめ食堂』に影響を受けてレストランを開いた方々だそうで、礼拝後の会食に、ビビンバやプルコギなどの韓国料理を振る舞ってくださいました。プロの方の作る味は格別美味しく、いただいたり、松田聖子の『青い珊瑚礁』と一緒に歌ったりするなど、夏のひと時を共に楽しく過ごしました。

また、料理教室を開いてくださるなど、短い間でも心もお腹も満たされる交流を重ねることができ、満足しました。李司祭や携帯の翻訳機能に助けられての会話で、深い話

ができず残念でしたが、これを機に韓国語を勉強したいという思いを抱けました。この出会いに感謝します。繋がりに感謝した夏でした。

### 東日本大震災被災者

#### 支援プロジェクト報告

◆9月11日の水曜喫茶支援は7名の参加でした。長谷川主教ご夫妻も参加し、名古屋柳城女子大学の方々へ、これまでのご支援への感謝を伝えるための写真を撮影しました。



皆さん「あの時訪問してくれた○○さんは元気になっているだろうか」など、思いがあるのです。長年の交わりの積み重ねを改めて感じます。こういうことを大事にしたいもの

です。◆2025年3月11日に行う記念プログラムの講演者は、元仙台基督教教会信徒の島田明夫氏にお願いいたします。同氏は東北大学名誉教授で地域防災研究者です。学ぶところの多い講演になると思います。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

(リーダー 浅原 和裕)

### 常置委員会報告 (第110回・9月17日)

報告事項▼常置委員長報告：第109(定期)教区会書記局会を行い、必要事項を協議した。▼執行機関報告：教役者、各部門長への「教区事務所だより」配付は、10月号よりメール配信とする。

協議事項▼若松諸聖徒教会が希望している聖堂建設に係る事業について、同教会管理牧師、教会委員と協議。▼教区施設・土地関係の工事の実施について：仙台市小松島三丁目地区残工事として、フェンス設置工事の追加工事の必要が生じ、施工と支出を承認。

▼8月6日開催「広島平和礼拝」に派遣された有我忠幸聖職候補生の宿泊代、交通費、および東北教区教役者会から申請された10月29日に開催する研修会費用について、研修資金適用を奉仕職養成グループにて審議、その結果を宣教主事から受け、これを承認。

▼2023年度教区会計決算を承認。

## 公 示

日本聖公会東北教区第109(定期)教区会を下記のように招集します。

救主降生2024年9月2日

日本聖公会東北教区

教区会議長

主教 フランシス 長谷川清純 ㊞

記

日時 2024年11月22日(金)18時から

11月23日(土)16時30分まで

場所 日本聖公会東北教区

主教座聖堂 仙台基督教会

礼拝堂・ピンステッド主教記念ホール

仙台市青葉区国分町二丁目13-15

書記局を下記のように指名します。

書記長 司祭 ヨハネ 八木 正言

書記 セント・クリストファー

赤坂 聖矢 以上

11月24日は「人権活動を支える主日」です。人権を守るための様々な活動を覚えて祈り、献金をお献げください。

### 11月逝去者記念聖餐式

11月6日(水)午前10時

於 主教座聖堂

司式説教 長谷川清純 主教

主教 ライト前川 眞二郎

1953年11月1日逝去

宣教師 Miss Bessie McKim

1973年11月5日逝去

司祭 西村 敬太郎

1971年11月7日逝去

司祭 マルコ植松 金蔵

1975年11月7日逝去

伝道師 松下 一郎

1918年11月10日逝去

司祭 大野 要蔵

1938年11月11日逝去

司祭 ヨハネ伴 君保

1956年11月11日逝去

司祭 ガブリエル 稲沢 忠信

1988年11月12日逝去

司祭 今井 献

2007年11月27日逝去

伝道師 白石 村治

1929年11月28日逝去

女執事 Miss Anna Love Ranson

1969年11月28日逝去